

【大佐倉・飯田地区探訪】 [ダイジェスト版]

令和4年度 第3回例会 佐倉路地裏探検隊 探訪記

【 探訪マップ 】

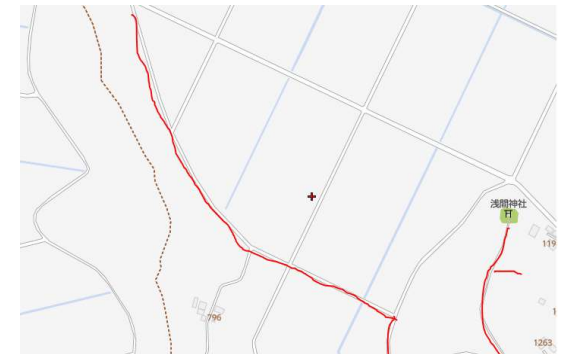
国土地理院 監修

【 探訪地点 】



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19

散策マップ1



全図



2

3

散策マップ2

5



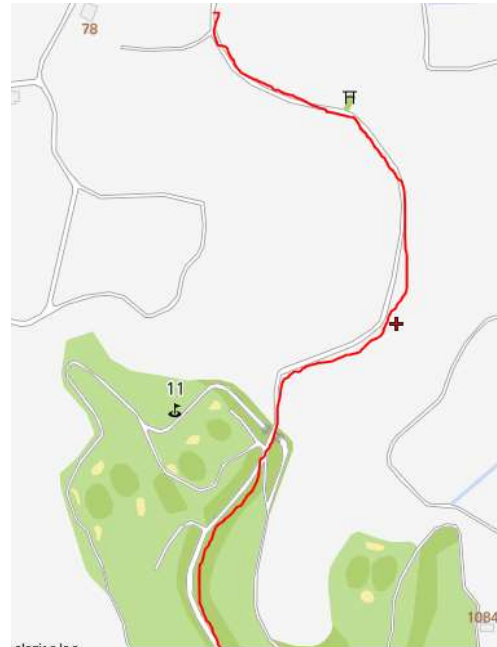
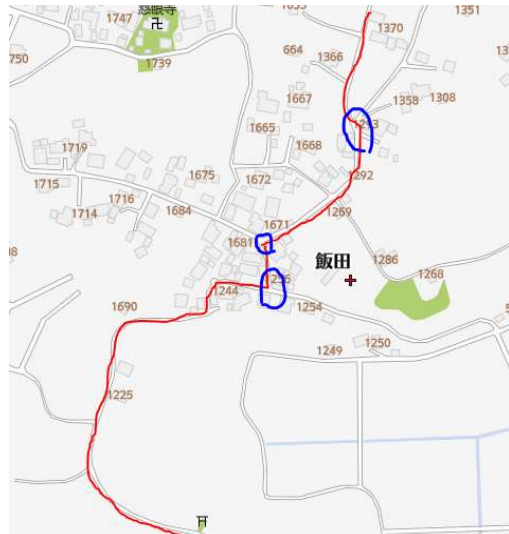
6



9



8



10

【大佐倉・飯田地区探訪】 [ダイジェスト版] 令和4年度 第3回例会 佐倉路地裏探検隊 探訪記

1

大佐倉駅



いつもながら乗降客は京成線で一番少ないです。周囲の住宅整備で住民増は余り期待できない為ですが、朝は上下線ともお勤めの方や通学の学生さんをみかけます。余り目につきませんが、社員2名は常駐されています。何らかの重要なお仕事をされておられるのでしよう



2

ヤワタ ジンジャ
八幡神社



八幡神社の神輿蔵と兼務の建物です



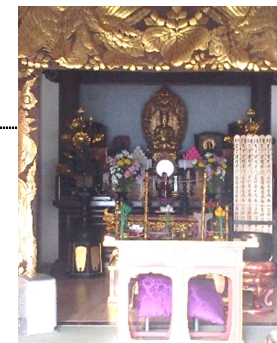
昭和41年建立の神輿蔵再建記念碑

3

宝珠院本堂



創建年代不明。永徳8年(1338)寺僧(派船)上人が中興。東寺宝菩提院僧正より最上を頂き、最上宝珠院と称しています。京都東寺菩提院の亮恵僧正が、当寺に永禄元年(1558)下向し、流派を伝授され壇林所になっていました。江戸時代は寺領として20石の朱印状を受領。真言宗の佐倉五山筆頭(他は酒々井町にある。東光寺・大仏頂寺・吉祥寺・文殊院(廃寺)の4寺)で、佐倉藩内真言宗寺院12ヶ本寺、120余ヶ門末を擁していた。大佐倉八幡神社の別當持。中印組十善講の1番札所、へ卯性14年から朝7時に鐘が撞かれます。ご本尊は大日如来



4

大師堂



兎角この堂を薬師堂、観音堂等とよばれますが、実は大師堂です(住職にも確認)。中印組1番札所です。この十善講は現在休講中です。外の御大師様社は六崎組の物が移されたものと思われま



5

鐘楼



平成14年から新しい梵鐘を朝7時に打ち始めたとの事。夕方はなし。梵鐘の音色は重く透きとおったものです。他に毎日梵鐘を定時に打っているのは、**上座宝樹院(朝6時)、肴町教安寺(昼12時)と寶珠院の3寺のみ**です。本佐倉の昌柏寺は大昔は毎朝7時に打たれていましたが、現在は年末31日のみ。岩富の長福寺は一時台風で鐘楼が台風で潰れましたが最近再建。鐘撞も定時に打たれ始めたのか確認が必要です。暮の鐘撞は数多く打たれますが、**この定時の3寺の鐘撞の音色をCDに落とし(写真と一緒に)記録し、佐倉市の記録として是非作他市教育委員会文化課、市史編さん室に寄贈いただけませんか!**



6

藤寄家



見学不可です。佐倉市登録有形文化財の藤寄家住宅です。江戸時代には名主を務めた旧家です。主屋は大規模な直屋(すごや 平面輪郭で平方面。曲屋と並べられる)。建築年は江戸から明治初期と推測。この住宅は上層農家の屋敷構えをよく残していて、中庭を囲むように主屋と蔵や門が建てられ、優れた一群の景観。伝統的な和風の観教に近代的な羊羹が点描となり、趣のある調和をうみだしている。主屋・洋館・文庫蔵・味噌蔵・表門・米蔵・馬小屋



7

藤寄家の蔵



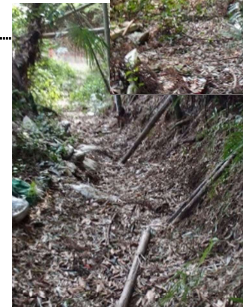
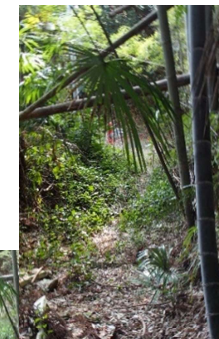
8

花輪台(浜宿)砦跡



9

花輪台砦虎口と虎口への道



本佐倉城の出先砦の一つと考えられ、主に印旛沼の監視・出入する舟・人間と物流の監視が主な仕事ではなかったのでしょうか

花輪台砦と台地下の浜宿の集落とを結ぶ入口に虎口があります

10

16

浜宿河岸への道



印旛沼に架かる河岸の一つです。主に平賀との行き来に利用されたようです。戦国時代からの港で本佐倉城の玄関口の港。江戸初期に新堀河岸に機能を譲り、間もなく機能復活し、明治頃迄は江戸等間で物資輸送がありました。淡水漁のウナギ・鮎・小魚の水揚げもありました。昭和43年水資源開発機構との間で補償契約締結により渡船組合解散しました。埋め立て干拓に伴い昭和30年代にこの河岸も無くなっていました



11

浪人屋敷跡



花輪台砦に関連する場所としてこの浪人屋敷があります。丁度納経施設の裏の竹藪付近と思われます。武家屋敷でなく「浪人屋敷」と称する事が分かりません。素浪人が住んでいたとも謂われていますが



12

藤寄家トマト自動販売所



藤寄に来橋市迄響き渡り買います。ご自宅の裏のビニールハウスから時々補充(意外と頻繁に)。自分で欲しい大きさのものを探して購入下さい。JAにお勤めの息子さんが作られた椅子にもお座りください。昔の本来のトマトの味がします。心持酸っぱいですが美味しいです



13

大佐倉の浅間神社



浅間さん、祭神は勿論木花咲耶姫命(コノハナノサクヤヒメ)です。祭礼には境内に露天商が立ち並び賑わったようです。1歳未満を初浅間といい「丈夫に育つように祈願。7才を終浅間と言い丈夫に育ったお礼と今斧健康を祈願

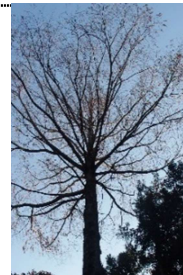


14

大佐倉の御室神社

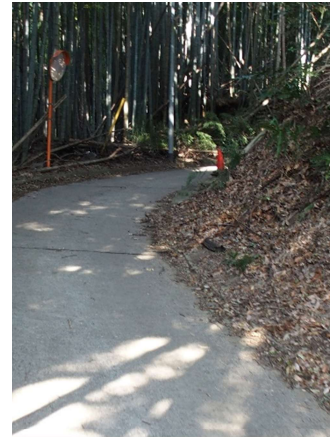


宇多天皇は京都仁和寺で落飾し御室を営んだ。この為仁和寺は御室御所と呼ばれた。関東に知行地があり、それが印東荘(成就寺領)で、その成就寺は京都仁和寺に一塔頭である成就院である事判明。仁和寺は宇多天皇の御願寺。宇多天皇=御室御所=仁和寺=成就院=成就寺=印東庄と繋がっていく。大佐倉はこの時代印東庄と深いつながりがある。御室神社は京都御所より得た名称で大山祇命(おおやまずみのみこと)で山岳の神。この木花咲耶姫命(コノハナノサクヤヒメ)の父にあたる。由緒ある神社ですので、逸話を木札で案内して下さい



15

坂(仮称 宮の腰坂)



小字から仮称を付けました。朝が田神社の前を通り飯野お台地上に出る坂ですが、非常に急な坂です。約12度、185m程です



16

飯田の麻賀多神社



印旛沼周辺に計18社あり、飯田麻賀多神社もその一つです。成田市台方が本宮です。永禄2年(1559)正一位の神階を受け、明治3年迄正一位麻賀多大明神と称しました。飯田村の村社で、間口1間奥行1間境内870坪ありました。氏子は65戸です(印旛郡誌による)。境内には社日様、蚕神社、出羽三山供養塔、伊勢講・富士講巡拝塔、水神様、水神宮、三峰神社等摂社も祀られています



17

柳田古墳と庚申塔



18

飯田の庚申塔1



この庚申塔は享保11年(1726)10月 飯田村の善男善女により造立されました。秀逸なのは、この庚申塔は日月輪・6臂・2猿・1邪鬼・シヨケラ(女性の首)・2鶏・2童子それと、足元に6体の童子がいます。真中の小さな2童子と左右に2匹ずつ景4匹の1本角のある鬼が(本来なら4夜叉と夜叉を案内する2鬼なのですがこの石仏は逆になっています)



京成佐倉駅



京成佐倉駅の北口も、宮前の大型住宅分譲地以外に駅真が賑える店舗等がなく非常に寂れています。佐倉市自身、京成佐倉駅とJR佐倉駅の2つの交通窓口、その間の城下。これらを一体化する道路整備・住宅整備が不十分な為中途半端な街づくり、観光開発計画がネックになっています。人口も減少、高齢者増、青・壮年層の減少を念頭に再度佐倉市の発展の為に街づくりをやり直す必要があります

